

ベンチャー実践の振り返りによる理念型起業家の意思決定の本質の研究

ビジネス専攻・35072003 Teppei Ikeda 池田 徹平

主査 東出 浩教教授

Keywords : 理念, ビジョン, 倫理, 哲学, 意思決定, 振り返り, プロセス

【目的】

本研究の目的は、ベンチャー企業のケース分析、成功した起業家へのインタビューによる事後的な分析ではなく、起業家の意思決定がいかに行われその基準となっている要素は何か、そして実際の起業活動を実践する中で起業家のビジョンがいかに形成されるのか、という2点について、実際の起業経験の振り返りを通じて明らかにすることである。

そして、究極的な目標として、起業家の意思決定がいかなる基準で行われるのか、そして実際の起業活動を実践する中で起業家のビジョン形成のプロセスはあるのか、を多くの起業家がそれぞれ知ること、どのようなベンチャー企業であっても、常に、自らの意思決定基準を客観視できるようになるとともに、ビジョンを獲得する手助けとなることが狙いである。

なお、ここでは、起業家が考える企業の理想の姿、噛み砕いて言えば、将来的にどんな企業になって社会にどんな価値を提供したいのかを言葉で表したものを「ビジョン」と定義する。さらに、「理念」と「ビジョン」を区別し、「理念」を創業から事業の終焉まで一貫して流れる創業の精神・哲学のようなものとし、ビジョンはその時代に合わせ変化していく、より具体的なものとする。併せてここでは、理念型起業家の定義として、起業家が強く思っていることや人生哲学を、投影するような形で起業する起業家のことを指すこととする。

【リサーチクエスション】

理念型起業家の意思決定の基準は何か？

理念型起業家が意思決定を下す際に、目的となっているビジョンの形成プロセスが並行してあるとするならば、それは何なのか？

【方法】

先行研究を紐解くと、起業家が持つ倫理・道徳的な基準は、社会の一般的なそれとほぼ同様であるが、ビジネスにおける意思決定の際、その倫理・道徳的基準を適用する割合が、起業家群の方が他の群と比べて大きい傾向があることがわかっている。一方で、起業家には Vision (ビジョン) の形成プロセスが存在し、そのプロセスにおいて、起業家の Relations (ビジネスネットワーク et. al.) がその形成に必要な不可欠な要素であることも示唆されている。これらの研究は、全て海外での事例であり、かつ事後的な分析に基づいており、ここに、本研究において、日本で、一人の理念型起業家の実際の意思決定の基準に影響を与える要素を抽出し、それがどのようにビジョンと関係していたのか？を、実践の振り返りを通じて明らかにする学術的な意味があると考え、

方法論として、以下の2つのステップで理念型起業家の意思決定の基準とビジョン形成のプロセスを解明していく。事例として、「動物と安心して暮らせる明日へ」というビジョンを挙げるファープース株式会社、代表を取り上げる。

- ① F 社の事業戦略、人材・組織、競合における重要な意思決定のケース分析による、意思決定の要素の分析
- ② 時間軸でみた理念型起業家のビジョンの形成プロセスの解明

【論文の構成】

緒言

- | | |
|-----|----------|
| 第1章 | 研究の目的・方法 |
| 第2章 | 先行研究 |
| 第3章 | ケーススタディ |
| 第4章 | 考察・議論 |
| 第5章 | 結論・示唆 |

【結果】

本研究では、理念型起業家の意思決定の基準として、その起業家が持つ倫理・道徳的な基準をあらゆる領域で利用する傾向があることを明らかにした。その意思決定の内側のプロセスは、①DDP 計画法のような極めて仮説指向のプロセスで、②Mintzberg のいう創発戦略が醸成されている。起業家の「理念」については、起業家自身が持つ倫理・道徳的な価値観から抽出されており、一方、起業家の「ビジョン」の形成のプロセスについては、そのビジョンの創発的なプロセス自体が、戦略策定の意思決定プロセスと並行して、表裏一体で存在していることが発見された。つまり、戦略の策定とビジョンの形成は同時に起こるのではないかとという発見的仮説が示唆される。

そして、理念型起業家であっても、起業初期にはビジョンが形成されていないと仮定すると、起業したてのベンチャー企業は、起業家自身の理念、哲学 (Philosophy) あるいは価値観の投影以外の何物でもないのではないかと一言できる可能性がある。

一方で、理念型でない起業家、つまりは理念ではない別の何かのために起業した起業家も存在するはずである。本研究の先にあるものとして、理念なき起業家は理念なきままで良いのか、理念なき起業家がどのように理念を発見・発達させるのか、理念型起業家がどのように理念なき方向へ変節していくか、理念なき起業家、理念と企業のビジョンに大きなズレがある起業家は会社を長期的に成長させ続けることができるのか、といったあたりが次の研究課題として提示できるのではないかと考える。

【主要参考文献】

- Dinah Payne, and Brenda E. Joyner: 2006, 'Successful U.S. Entrepreneurs: Identifying Ethical Decision-making and Social Responsibility Behaviors', Journal of Business Ethics, 65: 203-217
- Frances Westley & Henry Mintzberg:1989, 'Visionary leadership and strategic management, Strategic Management Journal : 10 : 17-32
- H Mintzberg: 1987, 'The strategy concept I: Five Ps for strategy', California management review, Fall: 30:11-23
- John F. McVea:2009, 'A field study of entrepreneurial decision-making and moral imagination', Journal of Business Venturing, 24:5:491-504
- Louis Jacques Filion: 1990, 'Vision and Relations: Elements for an Entrepreneurial Metamodel', International Small Business Journal January 1991 9: 26-40
- Sandra Waddock: 2009, 『PRAGMATIC VISIONARIES Difference Makers as Social Entrepreneurs』, CCCD:1-16
- Wilson T. D.: 2002, 『Strangers to Ourselves: Discovering the Adaptive Unconscious』, Belknap Press: 10
- 池田徹平:2008-2009, "てっぺい人の起業日記〜ハワイでマイタイを一杯やる日まで〜"
- グロービス 1998『MBA ビジネスプラン』,ダイヤモンド社
- ドリームビジョン:2008.8., 「市場/事業レポート・ペット関連市場への新規参入」『Dream Vision』, <http://www.dreamvision.co.jp/b0000/b8000/b8080/0018.html>,2010.12.25 閲覧
- Furpeace inc.: 2009, '2009年8月1日臨時株主総会スライド:page 2 リタ・マグレイス/イアン・マクミラン,大江建監訳:2002『アントレプレナーの戦略的思考術』ダイヤモンド社